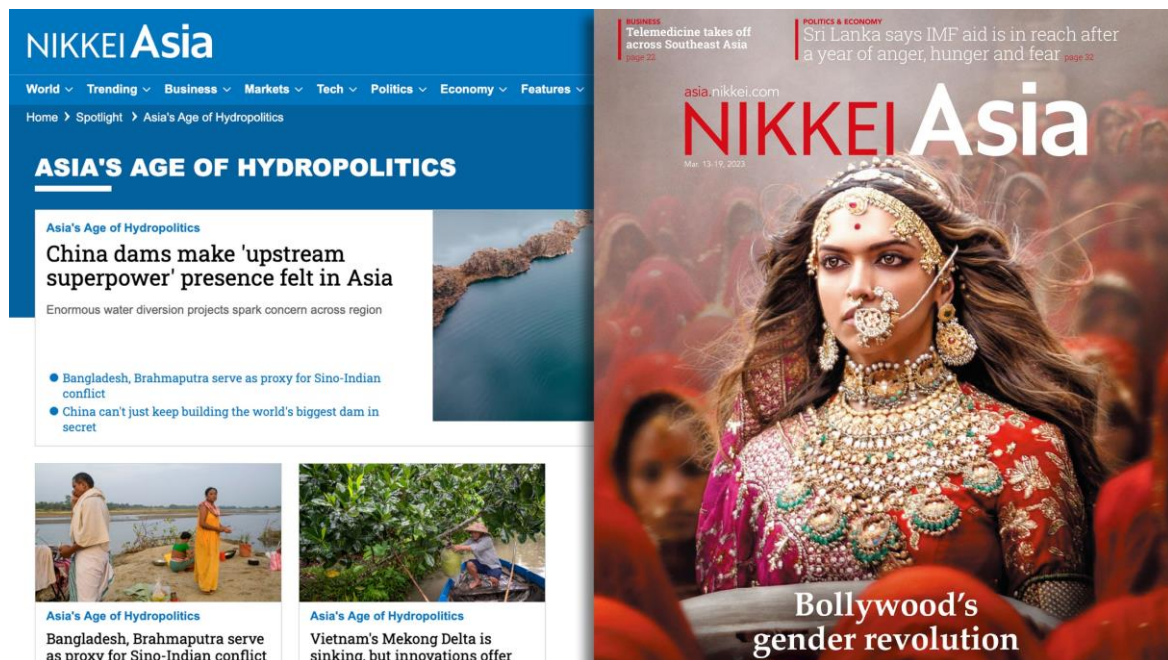


Nikkei Asia、米 SABEW 最優秀賞を2部門で受賞、3年連続



日本経済新聞社の英文媒体「Nikkei Asia」(<https://asia.nikkei.com/>)は14日、ビジネスジャーナリストの団体である米 SABEW (ソサエティー・フォー・アドバンシング・ビジネス・エディティング・アンド・ライティング)の「第29回ベスト・イン・ビジネス・アワーズ」中規模メディア2部門で最優秀賞を受賞しました。世界の優れたビジネス報道を表彰する同賞において Nikkei Asia が最優秀賞を受賞するのは3年連続となります。

「エネルギー・サステナビリティ・気候変動」部門では、アジアの水資源を巡る地政学動向に迫った連載企画「アジアのハイドロポリティクス (Asia's Age of Hydropolitics)」(<https://asia.nikkei.com/Spotlight/Asia-s-Age-of-Hydropolitics>、香港支局・姚柏穎記者、ニューデリー支局・キラン・シャルマ記者、ホーチミン駐在・リエン・ホアン記者ら)が受賞。国際河川に相次ぎダムを建設する中国と、水不足の脅威に直面する下流地域との政治的摩擦などについて現地取材し、豊富な写真やデータを盛り込みビジュアルにうったえる同企画は、審査団に「貴重な淡水の供給を巡る競争の要因と影響を詳細に描いた。地域レベルでの潜在的な解決策も示している」と評価されました。

「メディア・エンターテインメント」部門では、男性中心のインド映画界で女性の監督や俳優が活躍する姿を描いた「ボリウッドのジェンダー革命 (Bollywood's gender revolution: Women

are rewriting the rules)」 (<https://asia.nikkei.com/Spotlight/The-Big-Story/Bollywood-s-gender-revolution-Women-are-rewriting-the-rules>、ジュイ・チャクラボーティ・エディターら) が受賞しました。

SABEW は世界の経済ジャーナリストで構成する団体で、ベスト・イン・ビジネス・アワーズは 1995 年から毎年、最優秀作品を選定しています。今回は 2023 年に公開された記事などが対象で、181 の報道機関から 1103 作品の応募がありました。

〈Nikkei Asia について〉

成長著しいアジアの経済圏の実像をアジアに籍を置く日本経済新聞ならではの視点で発信する英語のサービスです。アジアに密着した取材網を生かし、深掘りした独自記事を数多く公開。日経の翻訳記事も含め、経済の専門家による寄稿、知識人の洞察、見解、分析を交え、アジアのいまをお伝えしています。アジアの未来を担う世界中のリーダーたちや、アジアについて詳しく知りたいという方々のために、バイアスのない「真のアジア」を提供します。

日本経済新聞社について

日本経済新聞社は 1876 年以来、140 年にわたってビジネスパーソンに価値ある情報を伝えてきました。約 1500 人の記者が日々、ニュースを取材・執筆しています。主力媒体である「日本経済新聞」の販売部数は 140 万部、2010 年 3 月に創刊した「日本経済新聞 電子版」をはじめとするデジタル有料購読数は 105 万で、有料・無料登録を合わせた会員数は 630 万です。

本件に対する問い合わせ

日本経済新聞社 広報室 TEL:(03)3270-0251 (代表)